

を②
害る
災害
自然
自思

安政江戸地震と

国土の条件

幕末の江戸は既に人口補っていたのが町役人制位として治めていた。災常時(自然災害時)には、130万人の大都市であ度で、町政は町役人の自書時の救済事業の拠点と幕府は「公」として敏速な「町会所」も町番組が積立金を出して運営で救済活動を行い、安政の治安は南北町奉行所に3人、名主220人、地とめられた。※(野口武

明治4年、新政府が3名主が、今で言う町役場000人の警察官を市中機能を果たしていた。町名主たちは「町番政」に介入する責任はな

に配したのと比べると、江戸時代の政府(幕府)組」という組合を作り、水書、疫病流行などの非

明治4年、新政府が3名主が、今で言う町役場000人の警察官を市中機能を果たしていた。町名主たちは「町番政」に介入する責任はな



(数字は第二回書上げ、下図は「江戸の名手番組」図集日本都市史』所収)による)

れたことが確認できる。このように「公」は自然災害に伴い改めて市井の人々に認識され、市井の人々は「公」の出

「武江年表」の筆者、政江戸地震」での幕府の対応は、小さな政府であ

国土は軟弱地盤 巨大地震が頻発

自然災害と幕末江戸の「公」

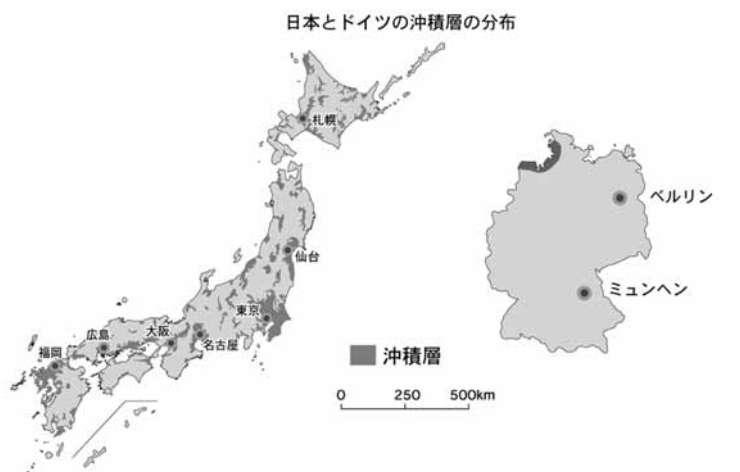
一方、死者が少ないのは四番組(日本橋南)17人、五番組(京橋北)29人、六番組(銀座辺)5人、九番組(芝白銀辺)18人、十番組(麻布辺)10人、十二番組(本郷辺)24人、十九番組(渋谷・目黒辺)0人、二十番組(新宿・高田辺)5人と

江戸とその自然地形



(原図は鈴木理生『幻の江戸百年』ならびに『図表日本都市史』による)

軟弱地盤上に立地する大都市(日本とドイツの沖積層の分布)



これらの地区は他地区に比べ被害は桁外れに大きい。いずれも隅田川沿いか、昔の沼沢の痕跡をとどめる低湿地である。

ただでなく武家地でも象徴的だった。御曲輪内、江戸城外郭の要の位置にある地域(丸の内ビジネス街・皇居前広場一带)は、老中や若年寄など幕閣クラスの譜代大名の屋敷が並んでいたが、大手前の西側、西丸下の東側、大名小路の西側など江戸城内堀沿いの区画にあった、老中阿部伊勢守邸、老中内藤紀伊守邸、老中牧野越前守邸、会津藩松平肥後守邸などが壊滅的な被害を受けた。